

# 1歳児

## 1歳児の発達

このころは・・・

- **運動面**ではつかまらずに歩けるようになり、押したり、投げたりなどの運動機能も発達します。
- **手づかみで食べたり**、身の回りの物やおもちゃなどを触ったりして遊びます。つまむ、めくる、通す、はずす、なぐり描きをする、転がす、スプーンを使う、コップを持つなど手先の動きが豊かになってきます。
- **指差しや身振り**で示そうとしたり、自分から呼びかけたり、片言を盛んに話したりするようになります。また、伝えたいという欲求が高まってきて1歳後半には二語文も話し始めます。身近なものを他のものにみたてるなども、言葉を習得していくことと大きなかわりがあります。
- **お母さんになったつもり**でおままごとをするなど、身近な人のまねや生活を再現して遊ぶことを楽しむようになります。

## こんな遊びをいっぱいしよう

- 大人との関わりを楽しむふれあい遊びを繰り返し楽しみましょう。
- 五感に働きかける遊びを豊かにしましょう。
- 身の回りの物に興味を広げながら、いっぱい身体を動かして（ぶらぶら散歩など）遊びましょう。
- まねっこあそびを楽しみましょう。

「イッショニアビタイ!」「ツタエタイ!」  
子どもの思いを受け止め、安心感の育みを

1歳児



一緒にするのが楽しい!

安心できる大好きな人との信頼関係が生まれ、見守られていると、少し離れて遊んだり、指差しや身振りで「アッタ」「イヤ」「モウイッカイ」等の思いや要求を伝えようとしたりするようになります。また、「ママ（パパ）が大好き」という思いが積み重なると、憧れの気持ちも育っていきます。「友達と同じものが欲しい」「大好きな人と一緒に遊びたい」という期待が生まれていきます。

こんなことあるある!



友達を持っているものを欲しがり、友達を噛んでしまいます。「ダメ」といったら怒るし…。



おばあちゃんが来てくれているのに、ちょっと席を離れようとする  
と大泣き!



「ダメ」って言われても、友達の持っている物が気になるし、言葉でうまくいえないんだもん。



ママとじゃないとイヤなの! 安心できないの。

子どもの気持ちを代弁してみると…

言葉にならない“カシテホシイ”“イッショニシタイ”“ジブンデ”などの気持ちにも共感し、大人が「自分でしたかったのね」等代弁していきましょう。分かってもらえたと感じると情緒が安定すると共に、言葉の発達も促されていきます。また、心地よいふれあいの中で大人への信頼感や「モット」という期待が育まれていきます。



保育者より

# 「イヤイヤ」「ジブンテ」 自立へのはじめの一步！



いい匂い！おいしそう！

手づかみで食べたり、スプーンを使ったり、自分でパンツをはいたり、大人の真似をしてスリッパをはいてみたりと「したい」という気持ちが膨らみ、手伝ってもらうのを嫌がることもあります。また、「おや、何かな」と周りのものに自ら手を伸ばし、五感（視・聴・臭・触・味）を通してかかわっていく時期です。

## こんなことあるある！



今まで食べていた野菜等も、嫌がって食べなくなりました。食べてほしいのに…



自分の好きなもの、嫌いなものが分かってきたんだ。



「やりたい」という思いが通らないと、泣いたり、怒ったりして、だだをこねて大暴れ。困っちゃう。



「ジブンテ」したいの。私にも自分の「つもり」があるの。

## 無理強いせずに、自分でやろうとする気持ちを大切に

「イヤ」がでてくると大人にとって困る場面がでてきます。食事では好き嫌いがでてくる時期ですね。無理強いせず、「いいにおい」がしたり、「ジュウジュウ」と焼ける音がしたり、人がおいしそうに食べたりすると食事に興味を持ち、食べたりします。また、こぼしたり、手づかみで食べたりしても、自分でやろうとする気持ちを大切にしましょう。



保育者より

# 「ミツケタ」「ナニカナ」 見て、触って、広がる子どもの世界

1歳児

お散歩大好き！



歩けるようになると行動範囲が広がり、散歩の途中で虫や犬・電車などいろいろなものを見つけ指差して知らせようになります。また、気付かないうちにティッシュをたくさん引っ張り出すなど、大人にとっては困った行動が増えてくる時期ですが、「なにかな」と触ったり、「みつけた」と喜んだりするような探索活動は、好奇心の現れです。

## こんなことあるある！



一人でおとなしくしていると思ったら、ティッシュを引っ張り出したり、階段を登ろうとしていたり…。いたずらばかりで目が離せない。



歩けるようになったり、手の操作が巧みになったりしてできることが増えて楽しいな。



好奇心が広がって、「なにかな」「み～つけた」と思うことがいっぱい。

## 伝えたい気持ち・やりたい気持ちを受け止めて

子どもが指差しや片言で知らせた時は「〇〇がいたね」と共感し、言葉で返していきましょう。また、子どもが触ったり、口に入れたりして危険なものは、子どもの手の届かない所に置くなど気をつけましょう。

でも、子どもがやりたい気持ちは満たせるように引っ張り出して遊んでもよい玩具などを用意しましょう。



保育者より